

Q 木曾病院の独立行政法人化とは A 県の動向を見守りたい



中村 健 議員

問 独立行政法人とは何か。患者、職員さらに経営への影響はどうなる。

保健福祉課長 極めて公共性の高いものに、行政が100%出資した法人をいう。運営費も交付される。

患者対応は今までと変わらない。職員の給与等待遇も変わらないと思う。経営は独立行政法人がおこなうため、人事あるいは予算運用が容易になるし、経営責任が明確になるメリツトもある。

問 病院も地域貢献のために24時間体制で頑張っている。木曾唯一



県立木曾病院

の入院施設のある総合病院を、行政、住民、病院三者が一丸となり存続していく必要がある。町としてやる必要があると思うが。

保健福祉課長 県の説明を受けて、要望できることはしていきたい。

外来、入院患者の減少が見られ経営への影響が懸念される。地元の病院にかか

問 林業棟標本室の資料の有効利用として、博物館構想があります。



上垣外 修 議員

また、木曾山林・林大・ふるさと体験館を結んだ黒川の里一帯は、「森と木」をテーマとしたグリーンツーリズム・エコツーリズムの拠点としての可能性を秘めていると考えますが。

副町長 後利用については「ボイス81」で知事から、

問 体育施設は社会体育施設として充分魅力的です。



木曾山林の工作室

るようPRしていきたい。

問 所在地である木曾町が中心的な役目を担いながら他町村との連携、協調を図る必要がある。また、所管である広域連合の役割も大

町長 広域連合としても木曾病院の重要性は認識している。「より良い病院にするため」とする県の動向を見守っていきたい。

Q 閉校後の木曾山林高校の 有効利用について

A 県と町で協議会を設け検討

問 県と町で協議会を設け検討することが示されました。

問 インテリア棟については、上松技専のOBも含め希望者に、工房・作品発表の場として提供し、寮や町内の空き家を活用すれば、過疎対策にもなり、木曾町がクラフトに係る中核になり得ると考えますが。

副町長 今後検討していきます。

問 体育施設は社会体育施設として充分魅力的です。

また、文化的施設として美術館・図書館への転用も可能だと思えますし、卒業生の「田中要次」の記念館のアイデアも寄せられています。

副町長 今後の課題です。

町長 後利用について県は在校生に考慮して慎重になっていると思います。

4月以降は木曾町抜きでは考えられない課題です。

日本の林業教育の象徴的存在であるので町としても積極的に係わっていきます。